

日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.77

2022年3月18日
発行

発行人：原田正樹 編集委員：佐藤 陽 秋貞由美子 熊谷紀良
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番27号 口リ工市ヶ谷3階
TEL.03-5227-7101 FAX.03-5227-7102 Eメール jimukyoku@jaass.jp



第27回埼玉大会(オンライン)を終えて

大会実行委員長 佐藤 陽 (十文字学園女子大学)

2021年(令和3年)11月27日・28日に第27回埼玉大会(オンライン)を開催し、実行委員を含み、全国から173名の参加を得て無事に終了することができました。あらためてご登壇いただいた皆様、そしてご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

前回の第12回埼玉大会は、県内研究者を中心に、社協をはじめとする各種機関・団体の実践者と共に運営しました。その大会運営に携わった関係者とのネットワークは継続的に発展し、今回の第27回埼玉大会は、全国初の「福祉教育・ボランティア

学習推進員養成研修」修了生によるネットワーク組織「あったかウェルねっと」と「埼玉県福祉でまちづくり研究会」の実践者を中心に県内研究者で運営しました。

1970年代から始まった埼玉県の福祉教育・ボランティア学習の推進は、青少年のボランティアの促進からはじまり、学校を含む地域社会で、障害のある人も高齢の人も「一人の地域の主人公」と位置づけ、お互いの協働の関係が、自立を図ることで共通しており(共生の文化づくり)、住民自身のお互いの関わり合いの中で行なわれる(ふだんのくらしのしあわせ)ものであるとして、常に学習を実践に紡いできました。

今大会も昨年同様のオンライン運営ではありましたが、前回の埼玉大会以降の県内実践や研究の進展が発信できるように、当事者を含む多様な立場の人たちとのつながりを大切に、コロナ禍においても歩みを止めず、今できることに取り組んでいる関係者で実行委員会を組織しました。

そして、何度も討議を重ねる中で、実行委員会のメンバーを増やし、互いに協力して、基調報告、シンポジウム、埼玉企画の特別課題別研究を2本、自由研究発表には当事者の方を中心に積極的に発表することを心がけ、テーマである「多様な立場の市民が創る、ふくし・共生の文化～お互いにエンパワメントしあう福祉教育・ボランティア学習の可能性～」について、大会企画運営そのものから伝えられるよう意識して展開を心がけました。

私自身、1970年代の青少年の一人として県内で学生ボランティアグループを組織化し、仲間たちと障害児者の余暇活度支援に取り組み、県内の青少年グループとネットワークを築いて研究会や交流会などで連携しました。また、社協職員としては、学校と地域における福祉教育・ボランティア学習の促進に尽力し、各市町社協の仲間と研究者と実践研究会を開始し、その歩みの中で県や全国のさまざまな取り組みにも関わるようになりました。そして、本会の設立に参加し、実践研究に臨んできた自分の人生は、埼玉県の福祉教育・ボランティア学習の発展と共にあったのだということが、大会実行委員長として基調報告で振り返るなかで再認識しました。

埼玉県では、10年間の推進員養成研修を修了した多様な立場の人たちが今日もイキイキと各々の地域だけでなく、新たな研究会を生み出し、広域に発展し続けています。また、県社協の「コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修(多職種協働研修)」を担ってきた「埼玉県福祉でまちづくり研究会」を通じて、各自治体の地域福祉計画づくりにつながっています。こうした複数の学習と実践を往還的に持続・発展させるプラットフォームが機能し、本会のさまざまな研究者が関わりながら人材育成に貢献していることが本県の強みとしてあげられます。

本大会実行委員会の振り返りでは、県社協は地域福祉推進プラットフォームを更に充実させて多様な関係者と促進し、県では障害福祉から当事者主体の障害理解の促進に取り組み、大会テーマの具現化に向けて、それぞれの立場から参画していくことが共有されました。

今後も埼玉県は、初心を忘れずに福祉教育・ボランティア学習と実践を紡ぎ続けていきます。